

平成 29 年度 終了評価書

研究機関 : 株式会社国際電気通信基礎技術研究所、パナソニック株式会社

研究開発課題 : 自律型モビリティシステム(自動走行技術、自動制御技術等)の
開発・実証(課題 IV)

研究開発期間 : 平成 28 年度

代表研究責任者 : 萩田紀博

■ 総合評価(5～1の5段階評価) : 評価4

■ 総合評価点 : 22点

(総論)

実証実験を通じたトライアル、ELSI も含めた検討等、研究は着実に進められている。また、対外発表、標準化活動を積極的に行っており、今年度以降の標準化活動のロードマップが明確である。さらに、地上ロボットだけでなくドローン等に対する社会的関心も高まっている中、将来的な視野に取り込んでいる。ビジネスプロデューサーのより積極的な関与が望まれる。

(コメント)

- 着実に進めている。ビジネスプロデューサーのより積極的な関与が望まれる。
- 地上ロボットだけでなくドローン等に対する社会的関心も高まっており、将来的な視野に取り込んでいる。
- 対外発表・標準化活動を積極的に行っている。
- 実証実験を通じたトライアル、ELSIも含めた検討がすすめられている。
- 今年度以降の標準化活動のロードマップが明確。

(1) 研究開発の目的・政策的位置付けおよび目標

(5～1の5段階評価) : 評価4

(総論)

地上ロボットだけでなくドローン等に対する社会的関心も高まっており、将来的な視野に取り込んでいる。また、実証実験を通じたトライアル、ELSI も含めた検討が進められている。

(コメント)

- 当初からの目的・政策的位置付けに特に大きな変化はない。
- 地上ロボットだけでなくドローン等に対する社会的関心も高まっており、将来的な視野に取り込んでいる。
- 実証実験を通じたトライアル、ELSIも含めた検討がすすめられている。

(2) 研究開発マネジメント(費用対効果分析を含む)

(5～1の5段階評価) : 評価3

(総論)

研究機関の間での連携はとれており、プロジェクト自体はしっかりと進めている。また、ELSIに対する外部委員会、大阪南港での実証実験、OMGへの標準化等もしっかり進められている。ビジネスプロデューサーの貢献が直接的には見えなかったもので、より積極的に関与されると良い。

(コメント)

- プロジェクト自体はしっかりと進めている。ビジネスプロデューサーの貢献が直接的には見えないので、より積極的に関与されると良い。
- 研究機関の間での連携はとれている。
- 大阪南港での実証実験、OMGへの標準化等もしっかり進められている。
- ELSIに対する外部委員会も進められている。

(3) 研究開発目標(アウトプット目標)の達成状況

(5～1の5段階評価) : 評価4

(総論)

当初目標を達成しており、積極的に標準化活動などを進めている。また、実証実験を行い、開発した技術がしっかり確かめられている。

(コメント)

- 積極的に標準化活動などを進めている。
- 当初目標を達成している。
- 実証実験を行い、開発した技術がしっかり確かめられている。

(4) 政策目標(アウトカム目標)の達成に向けた取組の実施状況

(5～1の5段階評価) : 評価4

(総論)

対外発表・標準化活動を積極的に行っている。また、ドローンへの拡張も期待できる。

(コメント)

- 積極的に取り組んでいる。
- 対外発表・標準化活動を積極的に行っている。
- OMG への標準化が徐々に進められている。ドローンへの拡張も期待できる。

(5) 政策目標(アウトカム目標)の達成に向けた計画

(5～1の5段階評価) : 評価3

(総論)

ROIS 等様々な標準化活動のロードマップが明確であり、また、ビジネス化への検討が行われており、妥当な計画である。

(コメント)

- 妥当な計画である。
- 今年度以降の標準化活動のロードマップが明確。
- ROIS 等様々な標準化、ビジネス化への検討が行われている。